



山陽スピリット ニュース



2017(平成29)年2月28日

学校法人 山陽学園

広報・山陽スピリット推進室 発行

Pass it on 白バラがつなぐ 山陽さんの願い



3月は別れの季節、花を手にした学生や生徒が誇らしげに歩いている姿が目には浮かびます。みなさんは、どんな花を思い浮かべますか？

山陽学園の多くの同窓生は「白いバラ」を思い浮かべるそうです。それは長年、在校生から卒業生に手作りの白いバラのコサージュを贈っていたからです。その習慣を象徴するように、1951(昭和26)年の卒業アルバムには、白いバラのコサージュを印象的に撮影したページがあります。今回は「白いバラのコサージュ」のルーツをたどってみましょう。



(↑)1951(昭和26)年の卒業アルバムに掲載されている「白いバラのコサージュ」

百年以上前から

「バラ」が使われていた！

卒業生がコサージュをつける習慣はいつから始まったのでしょうか。1905(明治38)年の山陽高等女学校の様子を記録した「みさを」にはこんな記述が残っています。「卒業級の級花は薔薇にて、そが造花を胸間に佩(お)びしは美しかりき」。112年前の山陽さんは「級花」としてクラスごとに花を決めて、卒業生はその花の造花を胸につけていた、ということです。明治から大正時代にかけての山陽高等女学校の女学生の写真からは胸に花をつけている様子がわかります。



昔の山陽さんにも
白いバラのコサージュ



「級花」は米国から来た？！

この「級花」という習慣がいつから始まったのか、はっきりしていません。しかし、上代淑先生が1893(明治26)年から留学していたマウントホリヨークにも同じような習慣があります。マウントホリヨークでは、学年の色と花、そしてモットーを掲げ、行事では白い服に学年の色や花などを取り入れます。マウントホリヨークで四聖人の一人とされる上代淑先生。その資料は現地で大切に保管され、淑先生が卒業した1897(明治30)年の級花もあります。



(←) Yoshi Kajiro (上代淑)の資料としてマウントホリヨークで保管されている1897年の級花

上代淑先生がマウントホリヨークから伝えたものといえば「きざはしの式」です。きざはしの式は、卒業生が下級生に「私たちが先輩方から受け継いだ“山陽さん”としての精神をゆずり渡します」という思いを形にしたものです。その思いを受けとった在校生は、手作りの白いバラのコサージュに「これから私たちも立派な“山陽さん”になります」という気持ちを込めていたのかもしれません。



(→)
「白いバラの
コサージュ」
学園史料室保管

「白いバラのコサージュ」

ふたたび手作りへ

“山陽さん”のシンボルだった白いバラのコサージュ。それを在校生が作って贈る習慣は、いつのまにか途絶えていました。

しかし、今年、白いバラのコサージュが復活します。新たに始まる中学修了式で1年生が手作りした白いバラのコサージュが3年生に贈られることになりました。この取り組みは「高校生になってもよき“山陽さん”として活躍してほしい」という先生方の願いから始まりました。



今年リボンで手作りした「白いバラのコサージュ」

白バラの花言葉には「深い尊敬」や「約束を守る」という意味があり、白いバラのつぼみは「少女時代」を表すそうです。

入学した頃、まだあどけなく幼さが残る顔だった中学生は、山陽学園で“山陽さん”としての日々を積み重ねて花開きました。「白いバラのコサージュ」には、「これからも素敵な“山陽さん”でいてください」という、たくさんの同窓生からの願いも込められています。次から次へと、他の人にゆずり渡し伝える、それを上代淑先生は「Pass it on」とあらわしました。あなたも願いを込めて、誰かに花を渡してみたいはいかがでしょうか。

